

# 更生保護女性会会長賞

賢明学院小学校 五年

## 大切なコミュニケーション

横山 七々実

わたしは、学校や社会のルールを破る非行や法律に違反する犯罪について、あまりくわしくは知らないけれど、どうしたら社会を明るくできるかを考えてみました。

ある日、わたしは家族とモールに出かけました。用事をすませ、夜の食事をしてそろそろお店も閉店になりそうな頃、ベンチでさわいでいる五、六人の少年達を見かけました。大きな声を出し、「こみやおかしをまわりのあっちこっちに捨てながらさわいでいました。まわりを見ても近くには、保護者らしき人はだれもいません。そして、その前をちょうどわたしたちが通った時、おかしのガムが飛んできて、お母さんの顔にあたりました。びっくりして一しゅん立ち止まつたけれど、「ごめんなさい。」の一言もありませんでした。わたしは、あやまることもなく、そのままさわぎ続いている少年達を見て、あまりにもマナーが悪いのでおどろきました。まわりの人達に迷わくをかけていることに、なぜ自分で気づかないのだろうか、もし一人だったらこんな行動はしないのではないかとも思いました。

夜遅くに、子供達だけで外出するのは、親や家族との会話やつながりがうまくできていなかつたり、学校生活や地域になじめず、だれにも相談できずに、「一人ぼっち」だと思いこんでしまうからではないでしょうか。「一人ぼっち」であるという深いさびしさをまぎらわすために、深夜、人の集まる所へ居場所を見つけに行き、また、それをきっかけに非行や犯罪をしてしまう子供達も多いと思います。

そうならないためには、まわりの人達があいさつや声かけをして、おたがいに話をすることが一番大事だと思います。家では家族と、学校では友達や先生と、近所の人やいつも行くお店の人達などと、積極的にコミュニケーションをとり、信らい関係を築くことがとても大切です。そうすることで、自分はいつも一人ではないと思えるようになると思います。

こうした子供の孤立を防ぐには、地域の人達との協力とサポートが必要です。例えば、家に親がいなかつたり、食事をとることがむずかしい場合は、「子ども食堂」があります。食事とるだけで

はなく、宿題をしたり、そこに来る友達とたくさんの会話や交流をしたり、子供達の心によりそう居場所となつて、多くの人が利用しています。

このような、地域とのつながりを深める活動が、非行防止に重要です。

また、今年の四月、わたしのおばあちゃんが、家の庭で転倒してけがをしました。一人で庭にいる時、つまずいて転んでしまい、頭を打つて倒れているところを、近所の人が何人もかけつけて抱き起こし、救急車を呼んでくれたそうです。おばあちゃんは、

「近所の人達のおかげで本当に助かりました。」

と何度も同じ言葉をくり返し、うれしい気持ちでいっぱいのようでした。その日、わたしたち家族は一日中外出していたので、近所の人達のおかげで本当に助かりました。

日頃から、地域の人達とのつながりを強く持ち、おたがいに助け合うことで、元気な明るい毎日を過ごすことができると思います。

非行や犯罪のない明るい社会をつくるためには、まず、自分の家族やすぐ近くにいる相手を気にかけることが大切です。一人一人があいさつや、「どうしたの。」という問いかけを通して、人と人とがつながり、信らい関係ができれば、今わたしたちが生きている社会がもっとより良い明るい社会になると思います。

